

(1)

昭和21年7月10日第3種郵便物認可

深海の珍魚  
サケガシラ

# 出現相次ぐ

## 白浜町周辺 4カ月で3匹



久保田信助教授のもとに持ち込まれた今年3匹目のサケガシラ（4月25日、白浜町の京都大学瀬戸臨海実験所で）

タチウオに似た深海魚で、めったに見ることのないサケガシラ（フリソデウオ科）が4月25日、白浜町臨海沖で捕獲された。今年に入って沿岸での目撃や捕獲は3匹目と相次いでいるが、今回は全長約170センチ、体高約20センチ、重さ4.5キロと、これまでで最も小さい個体だった。確認した京都大学瀬戸臨海実験所の久保田信・助教（51）は「老衰もしておらず外傷などもなかった。なぜこれほど頻繁に表層に来るのか分からない。昔からささやかれている地震との関連は証明されておらず原因は不明だが、継続調査が必要だ」と話している。

25日にサケガシラを捕獲したのは、白浜町の公務員、南澤さん（48）。午前6時半ごろ、臨海沖100メートルでイカ釣りをしていたところ、海底で銀色に光るものを見つけ、深さ2メートル付近でタモ網を使って捕獲したという。すぐさま同実験所に持ち込み、久保田助教が確認した。今年に入って最初にサ

白浜町周辺の沿岸で過去約20年間に記録されたサケガシラ				
年	月日	場所	体長(センチ)	状態
1987	5月21日	塔島	255	漂着・死亡
1994	6月4日	瀬戸漁港	約200	漂着・死亡
1996	10月16日	白良浜	約250	漂着
1997	6月7日	湯崎海岸	約200	水深2メートルを遊泳
"	12月6日	芳養沖約2キロ	276	漁網捕獲
2001	3月7日-4月上旬	湯崎海岸	200以上	漂着
2004	1月12日	鴨居海岸	230	漂着
"	1月20日	鉛山湾	約200	水深1メートルを遊泳
"	4月25日	臨海沖100メートル	170	深さ2メートルを遊泳

# 大地震の前触れ?

ケガシラが捕獲されたのは、1月12日夕方。白浜町才野鴨居の海岸に打ち上がっているのを、近くに住む遊漁船業、潮道隆男さん（33）が見つけた。全長2.3メートル、体高35センチのスタッフが、円月島がある鉛山湾のほぼ中央部で遭遇した。全長約2メートル、片目が傷ついており、水面直下を斜めに遊泳していたという。さらに1月20日、同実験所近くに「Miss Oceana」とある。久保田助教は今回を含め、過去20年間で計9匹の漂着などを確認しているが、昨年まで3年に1匹程度なのに対し、今年には4カ月足らずで3匹という頻繁さだという。久保田助教は「昔から『深海魚のサケガシラなどが打ち上がると大地震が起こる』という言い伝えがあるが、科学的根拠はない。しかし、われわれには分からないことが海の中で起こっているのかもしれない。普段見慣れない生物の行動が、物理化学的、地球学的なことと関連していることが分かれれば、大地震予知に役立つのでは」と話し、今後の継続した調査の実

「この個体は老衰だった。この個体は老衰には無数の寄生虫が寄り付いていたという。さらに月20日、同実験所近くに「Miss Oceana」とある。久保田助教は今回を含め、過去20年間で計9匹の漂着などを確認しているが、昨年まで3年に1匹程度なのに対し、今年には4カ月足らずで3匹という頻繁さだという。久保田助教は「昔から『深海魚のサケガシラなどが打ち上がると大地震が起こる』という言い伝えがあるが、科学的根拠はない。しかし、われわれには分からないことが海の中で起こっているのかもしれない。普段見慣れない生物の行動が、物理化学的、地球学的なことと関連していることが分かれれば、大地震予知に役立つのでは」と話し、今後の継続した調査の実

と注意を喚起している。白浜周辺でサケガシラの漂着記録がある1994年には、北海道東方沖地震（10月4日）と三陸はるか沖地震（12月28日）、1997年には鹿児島県北西部地震（3月26日）があったが、そのほかの漂着年には大地震は起こらず、ただちに関連付けることはできないという。

サケガシラは、体色は全体が銀白色、背びれは淡紅色をしている。北海道から沖縄までの日本沿岸外洋の深海中層部で頭部を上にした斜位の姿勢で遊泳しているということが、詳しいことは分からない。